

## 町立国民健康保険病院 清野院長、西村内科医長に聞く

病院改築まで1年。新天地・白老で地域医療に意気込む清野康生院長、西村光滋内科医長に新病院へのビジョンや抱負などを聞いた。

信頼される病院に

### 清野康生院長

—町立病院での診療について。

「病院の建物は古いが、歴史を感じる。新病院に移行まで大切に使いたい。白老も高齢化率が高く、体調を崩されて救急で運ばれて来る方も多いため常に緊張感を持ってやっている。重症になる前にかかりつけ医として来ていただくとありがたいと思う。自分たちのまちの病院を信頼していただいて、元気に暮らしていただけるとうれしい」



—新病院の期待と抱負。

「地域医療の中心の町立病院。患者さんの健康維持のため、医師が過不足なく勤務しているのが理想だが、常勤医師の招へいは難しい。この状況を理解いただき、今後スタッフにもこの病院の魅力を感じてもらい、仕事をしてもらえる環境にしていければいい。内部の体制をしっかりと整え、各部署が連携して病院をいい方向へ持っていきたい。新しい建物はアピールポイントにはなるが、一つのきっかけと捉えている。建物だけでなく、中身もしっかり新しく、町民に安心して来ていただける病院を目指す。今からスタッフの意識改革に取り組みたい」

—経営と町民へのメッセージを。

「一般会計に負担をかけないようにしっかり経営していく。職員一同、懇切丁寧に患者さんを診察させていただきたい。毎日毎日粛々と仕事に取り組み、結果として地域医療を担う病院として、町民に評価してもらえるようにしたい。町外からのスタッフもいるので、町民にまちのことを教えてもらい、未来に向けて新しい風も入れながらフレッシュな環境の中で医療提供していく。今は病院が新しくなる変革の年で、頭には仕事しかない。スタッフ一同、勉強・研修を積んでいく」

せいの・やすお

帯広、岩見沢、網走などで内科医を歴任。趣味は旅行、読書。札幌市出身、51歳。